

むっみ

第67号 2021. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

永年勤続表表彰受賞への感謝について	請戸川土地改良区	天野 真由美	8
勤続30年に思うこと	水土里ネット福島	石幡 佳信	8
勤続20年を迎えて	棚倉町土地改良区	齋藤 克憲	9
勤続20年目を迎えて	高郷土地改良区	後藤 学	9
あれから20年	矢吹土地改良区	吉田 昌照	10
永年勤続10年	水土里ネット福島	木村 修士	11
永年勤続			
退任にあたって	福島県土地改良団体職員連絡協議会	前会長 鈴木 禎一	7
第44回総会			5
幸福で快適な一年に	福島県土地改良事業団体連合会	専務理事 菊地 和明	4
新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	会長 菅波 孝光	3
年男・年女			
4度目の年男	山都町土地改良区	鈴木 篤	12
年男	須賀川市土地改良区	橋本 雄司	12
人生の節目に思うこと	猪苗代町土地改良区	筒井 祐子	13
パワフルにがんばります	磐城小川江筋土地改良区	小山田 美保子	13
年女の幕開け	棚倉町土地改良区	長田 麻美	14
5年目を振り返って	水土里ネット福島	石黒 吉亜	14
新年の抱負	水土里ネット福島	宮田 亮	15

新会員のみなさんより

土地改良区の職員として……………	千軒平溜池土地改良区……………	16
岡村泰典		
土地改良区職員として……………	請戸川土地改良区……………	16
南原茄奈		
土地改良区職員として……………	安積疏水土地改良区……………	17
渡辺友也		
土地改良区職員として……………	安積疏水土地改良区……………	18
圓谷昌紀		
土地改良区職員として……………	水土里ネット福島……………	18
齋藤浩平		
土地改良区職員として……………	大玉土地改良区……………	19
渡邊佳音		
土地改良区職員としての抱負と目標……………	請戸川土地改良区……………	19
佐藤良太郎		
宜しくお願い致します……………	猪苗代町土地改良区……………	20
青山都		
土地改良区職員として……………	会津北部土地改良区……………	20
新明なつみ		
土地改良区職員として……………	水土里ネット福島……………	21
菊田早希子		

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 菅 波 孝 光



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は本協議会の運営に特段のご支援、ご協力を賜り衷心より深く御礼を申し上げます。

本協議会の令和二年度総会は、コロナウイルス感染対策のため書面表決により、事業計画、予算、役員改選などを可決して頂きました。

また、永年勤続の表彰式も省略となりましたが、表彰を受けられた皆様に、改めてお祝いを申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、土地改良区が置かれている社会情勢は極めて厳しく、日進月歩、成長していくことが望まれる時代となっております。運営基盤の強化、役職員の質的向上、業務の効率化、地域農業支援への参画なども重要と考えられます。

私も平成六年に土地改良区へ勤めて以来、ひたすら汗をかき走り続けて参りましたが、次世代の健全な働く環境を整え始めております。限られた人件費で、より多くの業務をこなすには、業務作業の効率化、単純化、分業化などを整え、職員能力に応じた配置が不可欠です。発生主義の複式簿記は効率的な単純業務として十分に成り立ちます。

将来に渡る地域農業発展のため、農業基盤整備や農業担い手育成、農

業水利施設の適正管理に職員労力の大半を費やすべきです。

農地の八割集積、水稻農家の経営基盤構築の中で、スマート農業、管理労力省力化のための再基盤整備や土地改良施設の効率的な運営など、益々、業務が多様化、高度化して参ります。

職員のスキルも向上していかなければなりません。

東日本大震災や原発事故、令和元年東日本台風など大ピンチは、変貌を遂げる大チャンスです。

近年、県内土地改良業務が多忙に付き、土地改良区職員も若い人達が増えて参りましたがスキル向上のためには、優れた先輩職員の背中をみせることが一番だと存じます。また、先輩方は、福島県の農業発展のために後輩の指導、助言に勤しむべきです。その場として、本協議会が重要な役割を担っているのではないのでしょうか。

昔も今も変わらないのは、「やりがいのある仕事、誇れる仕事」の一つが土地改良事業ではないでしょうか。

一度きりの人生、仕事として土地改良事業に携わることを光栄に思い、日々、仕事に励みましょう。

申し遅れましたが、私は、この度、第四十四回総会におきまして、鈴木楨一前会長の後任として会長に選任されました。

本協議会の会長という責務の重さを改めて痛感しているところでございます。副会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜り任期満了まで恙無く務めて参りたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

最後に、本年が会員の皆様にとりまして、より良い年となりますように、そして、福島県の土地改良事業にとって飛躍の年となりますよう、ご祈念申し上げます、年頭の挨拶といたします。

幸福で快適な一年に



福島県土地改良事業団体連合会

専務理事 菊地 和明

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。何かと騒がしい昨今ではありますが、本年が皆様にとって幸多き一年となることをお祈り申し上げます。

昨年にスタートした菅政権は「既成概念に捉^{とら}われない」施策を次々と展開しています。積極果敢ではありますが、新型コロナウイルス対策と同様に、課題が差し迫って取り組まないわけにはいかないというのが正しい表現なのかも知れません。

私たちも、幾度となく〴〵もつと効率的に〴〵とか〴〵課題を解消して〴〵などと言われつつも、日々の業務に追われ、〴〵改善に取り組む余裕なんかないのになあ〴〵と心でつぶやきます。

でも、全く心配はいりません。大きく変わることができるときは否^{いや}が応でもやるしかないときであり、しかも、その場面では、通常の五割増しの能力も発揮できます。いわゆる「火事場の馬鹿力」というやつです。そのときに変われば良いのです。

勿論そのときは、汗だくの極めて厳しい場面となりますが、残念ながらその危機は来るときには来るものです。東日本大震災・原発事故や一昨年の台風等災害もそうですし、皆さんそれぞれが、これまで何らかの辛い経験をお持ちのことと思います。

ただし、有事の苦しさを少しでも和らげたいのなら、事前に〴〵変わるための糸口を見つけておく〴〵のがお勧めです。

例えば、定例業務でやめて良い部分、同時に済ませれば省力化できるバラバラの事務、自席前の最も便利な棚を埋め尽くす三年間見たことがないファイル群など、足下^{もと}にはゴロゴロとチャンスが転がっています。

皆さんの業務はほぼ共通の悩みを抱えていて、独自の工夫で楽をしている仲間がいるのですから、彼からヒントをもらいます。いつも暇そうな土地連の専務あたりを活用してみるのもひとつの手です。

新年早々何かと悩み多き皆さんも、今年は少し楽してみませんか？不思議なことに、同じ給料で楽をすると、回りは褒^ほめてくれるのです。

年齢を重ねたせいとか、近年「幸福」を語り始めました。私の結論は、「幸福とは自分がそう思うこと」です。意味不明でしょうか？

例えば、「ちびまる子ちゃん」の中で最も幸福なのは誰でしょうか？答えは「花輪くん」ではなく「山田」(くんはつきません)です。「クレヨンしんちゃん」で最も不幸なのは「風間くん」です。この二人をその意識でのぞいて見ると、そこに「幸福」が見えてきます。

最近、韓国ばかりでなく日本の一流芸能人も自殺が目立ちます。あれほど恵まれているはずの彼らも、自分を不幸と考えれば悲劇に向かいます。農業・農村を、少子高齢化、担い手不足、耕作放棄地拡大など嘆いている我々はやはり不幸なのかも知れません。

気づけば、都会の若者たちが農業・農村の魅力を語り始めています。確かに、彼らが本質の課題を理解しているのかは怪しいところですが、私たち農業農村整備関係者が、この魅力たっぷりの幸福な環境の中で、不幸を決め込んでいるとなると芸能人なみというところでしょうか？

幸せを求めて、都会からこちらに人々が動き始めています。今年はずっと楽をしながら、折角なので、幸福に浸ってみませんか？

第44回総会

第44回総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面表決の方法により行われました。

【提出議案】

- 議案第1号 令和元年度事業報告の承認について
- 議案第2号 令和元年度収支決算の承認について
- 議案第3号 令和2年度会費・協賛金について
- 議案第4号 令和2年度補正予算について
- 議案第5号 令和3年度会費・協賛金の額及び徴収方法について
- 議案第6号 令和3年度事業計画について
- 議案第7号 令和3年度収支予算について
- 議案第8号 役員の改選について

【結果】

提出された全ての議案について、賛成多数により承認されました。

また、会長、副会長、代表監査員の選任においては、新役員による互選（書面表決）の結果、全会一致で下表のとおり選任されました。

通常総会が、書面表決により実施されたことにより、例年行っていた総会での表彰式が中止となりました。表彰者の皆様へ賞状及び記念品をお届けするのみにしてまいりましたこと大変残念に思います。受賞者の皆様の御健勝と今後益々の御活躍をお祈りいたします。



福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

（令和2年度～令和3年度）

役職	氏名	所 属	方 部
会 長	菅 波 孝 光	愛谷堰土地改良区	いわき
副会長	石 川 博 利	伊達西根堰土地改良区	県北
副会長	五十嵐 賢 一	会津若松市湊土地改良区	会津
副会長	鈴 木 浩	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹 事	菅 野 龍 太 郎	安達疏水土地改良区	県北
幹 事	根 本 和 俊	安積疏水土地改良区	県中
幹 事	渡 邊 陽 介	郡山市東部土地改良区	県中
幹 事	吉 田 昌 照	矢吹土地改良区	県南
幹 事	武 藤 謙 治	白河市土地改良区	県南
幹 事	加 藤 健 也	磐梯西部土地改良区	会津
幹 事	佐 藤 慎 子	駒形土地改良区	会津
幹 事	諏 訪 美 彦	会津宮川土地改良区	会津
幹 事	山 内 翔	只見町土地改良区	南会津
幹 事	堀 内 博 明	そうま土地改良区	相 双
幹 事	三 浦 宏 幸	請戸川土地改良区	相 双
幹 事	工 藤 純 久	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	後 藤 純 学	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
監査員	渡 邊 浩 彰	高郷土地改良区	会津
監査員	矢 吹 英 信	大玉土地改良区	中通り
監査員		磐城小川江筋土地改良区	浜通り

永年勤続者表彰

30年勤続

そうま土地改良区

矢吹土地改良区

請戸川土地改良区

四時川沿岸土地改良区

戸ノ口堰土地改良区

安積疏水土地改良区

福島県土地改良事業団体連合会

福島県土地改良事業団体連合会

福島県土地改良事業団体連合会

20年勤続

会津東部土地改良区

棚倉町土地改良区

高郷土地改良区

矢吹土地改良区

安積疏水土地改良区

10年勤続

梁川町土地改良区

布藤堰土地改良区

会津宮川土地改良区

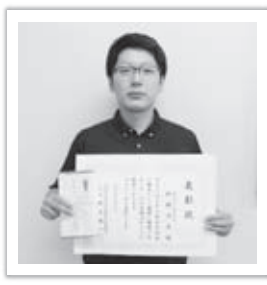
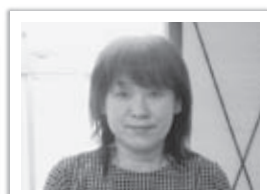
只見町土地改良区

福島県土地改良事業団体連合会

福島県土地改良事業団体連合会

福島県土地改良事業団体連合会

新田能子	木村修士	武藤新弥	山内翔	板橋吉彦	鈴木木勝子	齋藤享子	細谷宣明	吉田昌照	後藤克学	齋藤啓憲	添田啓子	櫻井嘉純	人見佳信	石幡佳光	三本木伸光	大桃智子	小宅義孝	天野真由美	泉川さよ子	遠藤喜雄
------	------	------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------



退任にあたって

福島県土地改良団体職員連絡協議会

前会長 鈴木 禎 一

あけましておめでとうございます。

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2019年度より本協議会会長の任に就き、あっという間に2年が過ぎました。まさに矢のごとし、過ぎ行く時の速さを改めて実感しています。

在任中は、副会長をはじめ役員の方々と、会員のみな様にはひとかたならぬご協力をいただき、誠にありがとうございました。そして、常に後方で会長を支えてくれた事務局の方々と、本当にお世話になりました。

2年間で振り返ってみると、大した貢献もできずに終わってしまい、自分の役者不足を切々と感じているところです。

しかし、そんな不甲斐ない会長でも、周囲の多くの方々はいつも気にかけてくれて、なにかと協力してくれる、そんな体制にありましたね、本協議会は。

何事もシュールになりがちな昨今、こういった心遣いは本当にありがたいものです。前向きにもの考える勇気のようなものが湧き出てきます。

多くの職員が、職場を超えてコミュニケーションをとり、支えあえるような関係であり続けられることはステキなことですね。

「結、という言葉は忘れられようとしていますが、本協議会においてはいつまでも現役であってほしいものです。

退任にあたり、少しばかり思ったことを書かせていただきました。

職員がますます元気に、土地改良区もますます元気に、本協議会がその支えになってくれるといいな、そんな思いを込めて、新会長、新役員、事務局の方々に思いっきり「エール！」を送ります。がんばってください！

また、末筆になりますが、会員の皆さまのますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

永年勤続

永年勤続表彰受賞への感謝について

請戸川土地改良区

天 野 真由美

この度は、勤続30年の表彰を頂き誠にありがとうございました。

当土地改良区で管理を受託しております大柿ダムが供用開始となりました平成元年4月に職員として採用頂きました。

最初の頃は今以上に解らないことばかりで、賦課金とはなぜ組合費や会費ではないのか、頭首工とは「あたま」「くび」何やら恐ろしげな：程度の知識でしたし、先輩職員さんが表彰を受賞されました時には、この仕事に「30年」という時の長さを費やすことへの想像が全く出来ていませんでした。

その先輩職員さんに「仕事は習うより慣れ、どこにどの書類が置かれているか把握していれば、そこから最初は見真似でも理解出来て来る」とご教示頂きましたこと覚えています。平成9年10月に隣接4土地改良区が合併し現在の請戸川土地改良区がスタートしました。

これまで維持管理に特化していた事業内容に基盤整備等も加わったことで、地域の中での土地改良区の役割が自分なりに見えて来ました。

そして平成23年3月の東日本大震災と原子力災害でそれまでの日常が一変し、何かにつけ基準が震災の前と後とに分けて考えるような癖が付いてしまいました。

震災当時の大混乱の中、当土地改良区の事務が継続出来ましたのも、居場所を提供して下さいました福島県土地改良事業団体連合会様と仕事のことはもちろん、私生活面で必要な物資の応援や暮らしの情報等お世話を頂きました同職員の皆様、関係機関の皆様のお力添えの賜です。多くの方々を支えて頂いている事をこ

の時程実感したことはありませんでした。これは一生忘れてはならないことです。

先日、娘が結婚をしました。披露宴に招待致しましたお客様の中に、遠方から2泊がかりで出席して下さいました方がおりました。ご主人と子どもさんの身辺のあれやこれや段取りをし、いつもはリビングのいい場所を我が物顔で陣取っている飼い猫たちをペットホテルに預け駆けつけて下さいました。猫たちにとって「なんだ?」「どうした?」だったと思います。動物好きな娘とその話しをして、見えないところでそうした協力が重なりあって自分たちが成り立っていることを笑い話しながら再確認したところです。

平日、家と職場の往復で世間の狭い私ですので身近なところから、勤続30年の節目としてこれまで協力をしてくれた家族と、支えて下さいました職場の皆さんに深く感謝申し上げます。

そしてこれからもどうぞよろしくお願い致します。

勤続30年に思うこと

水土里ネット福島

石 幡 佳 信

始めに、土地連に勤め無事に30年を迎えられましたこと、ひとえに職連協の皆様にあかく接して頂いたおかげと感謝申し上げます。

私は入会2年目から現在に至るまで測量課に属し、現場を駆ける日々を送ってきました。県内全域を回ることから、春には浜通り、中通り、会津の三つの桜を1ヶ月通して見続ける年も多くあり、福島県の自然と土地改良事業で完成した田圃に包まれて仕事をしてきました。

宿泊の出張も多く、お酒はここでおぼえましたし、三角点（全国にある測量の基準杭）の踏査で山に入っていた時、遭難していたおばあちゃんを連れ、一緒に下山、なんて現場仕事ならではの体験もあります。

辛かった事はなかったか自問いし



ますと、夏の暑さや足先が凍える厳冬の作業もさることながら、関係機関との打合せ不足や意思の疎通により、作業をやり直し、何回も謝った事が、悩み辛かった事かなと思います。もちろん自分の力不足が原因ですから、仕様が無いですが。そんな時も改良区の皆さんには親身になって励まして頂きました。

ここで30年を振り返ると、一つ一つやり遂げる事を「矜持」と考え仕事をしてきたと思います。もちろん、土地連の先輩、同僚、後輩の支えがあって、そして前記の通り改良区さんの支えがあって、ようやくと続けてこれたかと思っています。

定年退職まであと2年ありますので、皆さんへの「感謝」の気持ちを忘れずに明日からまた頑張りますので今後ともよろしくお願いします。

勤続20年を迎えて

棚倉町土地改良区

齋藤克憲

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく申し上げます。

この度は、永年勤続の表彰を頂き有難うございます。定年を迎えようとしている年でもあり、棚倉町土地改良区にお世話に成り20年を迎えたことに気が付きました。

この20年間、土地改良区の組合員の皆様と共に歩んで参りました。

最初は土地改良事業の名称や意味も分からない事が多く有り、毎日理解するのに苦労しました。

今の仕事は何を行っているのか、工事は何処まで進んでいるのか等、苦闘の連続で数年は毎日、夜遅くまで事務所に残り作業を続ける日々でした。土地改良区運営の全てを2人体制で把握し、作業を行なうため、日々心が休まる日は有りませんでした。

た。特に未納金納入交渉では事務局と理事さんが一緒に伺うのですが、最初は組合員さんにも不満一杯の状態でした。交渉するため、重い空気の中での話し合いと成り、罵倒されたまま再交渉と成る事は度々で、当初は交渉ごとに慣れず逃げ出したい気持ちに成りましたが、帰りに理事さんからの温かい言葉と励ましの言葉で心が落ち着き、再び頑張ろうとする気持ちにさせてくれたことがほろ苦い思い出として心に残ります。

現在も多くの組合員さんをはじめ役員の皆様から『頼りにしているよ』と声を掛けて頂ける事が何よりも私の活力源と成っています。

そして歴代役員の叱咤激励を頂きながら今日まで勤める事が出来ました。

土地改良区に在籍し、様々な事を経験させて頂きました。どんな人でも心の中は一人の人間として生きており、とことん話し合い、相手の事も理解しあえれば、どんな険しい道のりも道は開けるものをつくづく考えさせられました。

昨年の台風19号により甚大な被害を受けた農業施設、農地も無事に春の作付が行われ、秋の収穫を迎える事が出来ホッと一安心しました。そ

して、以前の美しい農村風景が戻りつつあります。災害復旧に携わった多くの方々の御尽力に心より感謝申し上げます。

最後に、定年後も微力ながらあと少し、この土地改良区で組合員さんのために頑張りたいと思います。

勤続20年目を迎えて

高郷土地改良区

後藤 学

土地改良区職員となって今年で20年目となり、また一つの節目を迎えました。

職員となったばかりの頃から振り返りますと、入ったばかりの頃は営事業や団体営事業が盛んに展開されており、かんがい施設整備ほか、ため池農道整備、(浅耕土)客土等包括的な整備が実施されていたところでありました。

現在は維持補修的な事業がメインですが、一方で組合員の高齢化や減少のため担い手の育成支援及び農地集積の斡旋等にも各関係機関と連携し、業務運営をしているところでもあります。

また災害被災として、当区域を縦断しております1級河川只見川及び阿賀川水系の氾濫によりまして平成16年、23年、令和元年と3度被災し、具体的に揚水機の冠水被害、揚水機場建屋基礎の洗掘等災害復旧事業での復旧工事を経験してきました。

こうした経験を踏まえ、今後も当区の発展に寄与する所存でありますが、現代の複雑かつ多様化する情勢に対して、柔軟な考えや発想は、これから特に発揮していかなければならないと感じます。

更に今年はコロナ禍の影響によりまして組合員とのコミュニケーションについても有益な情報の発信や広報活動にも工夫が必要であると感じます。

余談となりますが、健康面においてもコロナ禍で運動不足となった体脂肪対策、年末年始の暴飲暴食をなるべく？控え適度な運動を取り入れ穏やかに過ごしていきたいと思えます。

最後になりますが、関係各位のご健康とご多幸をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

あれから20年

矢吹土地改良区

吉田昌照

矢吹土地改良区は昭和45年に認可され設立されました。あれから50年をへて、令和3年を迎えます。

改良区50年の歴史の半分は、整備事業に勤しみ、負担軽減対策をへて、約10年前にすべての償還を完了し、現在は、維持管理業務にシフトしておりますが、当改良区はもとより、全国の改良区では、土地改良法改正による定款や規約の変更、新規規程の整備、単式簿記から複式簿記への移行などなど、やる事が山積みとなっております。さらに、当改良区では維持管理計画書が未整備です

ので、管内施設の調査を行い早急に整備を進めているところです。

自分は、20年を職員として過ごしてまいりましたが、整備事業当時の改良区は知りません。その頃は、まだ小学校に上がるか上がらないか、祖父の運転する耕耘機の荷台にゆられ、辺りの造成風景を眺めていた記憶がわずかに残っているくらいです。

当時、整備事業に賛同された地権者はじめ、換地委員、地域役員や総代の方々、県や町、土地連、改良区の職員、工事を請け負っていたいただいた業者の皆様が一丸となり、どのようにして事業を成し遂げたのか、今となつては過去の事務文書や会議録に目を通すことくらいしか知る術はありません。

よく、「あの時はこうだった」「こういう話し（約束）だった」など、会議録などの活字にも残らない現場での事象など、いわゆる「土の中の話」について相談に来られる組合員がおります。そのような対応にいつも四苦八苦しますが、同時に事業当時を垣間見ることが出来る機会をいただきました。

ここ10年は、東日本大震災、令和元年台風19号災と、大規模災害が続き、その度に改良区も被災しました。

震災直後、アメリカ海軍の「トモダチ作戦」が大変話題となりましたが、それを指揮したのが空母ロナルドレーガン艦長です。また、終戦後の日本復興に大きく貢献されたアメリカ人がおりました。どちらもバークという同じファミリーネームの方々です。彼らは血縁関係ではありませんが、私たちは同じバーク氏に助けられました。

災害などに対し改良区は無力ではありますが、その度に様々な方々からの支援と配慮をいただき、今を生きております。改良区もまた、どんなかたちにせよ、何らかの繋がりをもって、何かのお役にたてていければよいなとつくづく思います。

最後になりますが、これからも、皆様と協力しあいながら、笑顔で仕事ができる自分であり矢吹改良区でありたいと思います。

永年勤続10年

水土里ネット福島

木村修士

まずは永年勤続表彰ありがとうございます。

会員の皆様をはじめ、これまで一緒に仕事をさせていただいたすべての方に心より感謝いたします。

私は2009年に当会へ入会し、初年度から3年間は測量課に配属されました。入会した年に政権交代があり、次の年には事業仕分けで予算が大幅減、さらには東日本大震災を経験しました。本来業務は、ほ場整備の確定測量が主でしたが、震災後は津波被災地域の堆積土調査や施設の被災状況調査で浜通りの現場へ通いました。寄せ集められた瓦礫や住宅の基礎部分だけ残して消えた集落を横目に現地調査を行う日々でした。また、現場の作業量が多かったため、内業は残業で補うのが日常化してい

る状態で、この時点で転職の動機としてはこれ以上ないくらいのロイヤルストレートフラッシュ状態で揃っていたのですが、行動に移す余力もタイミングありませんでした。

4年目から企画指導課へ異動となり、「水土里情報システム」をはじめとしたGIS（地理情報システム）関連の業務を担当しました。私自身、GISは見るのも聞くのも初めてだったため、操作や特性を理解するまで苦労しましたが、復興業務での活用やタブレットアプリの運用等が当時全国的にも先進事例だったことから、学会や研修会等で発表する機会もいただきました。この技術提案や実績作りのコーディネートこそが、民間企業には真似できない当会独自の優位性であり、行政や会員に求められる当会の役割だと考えています。

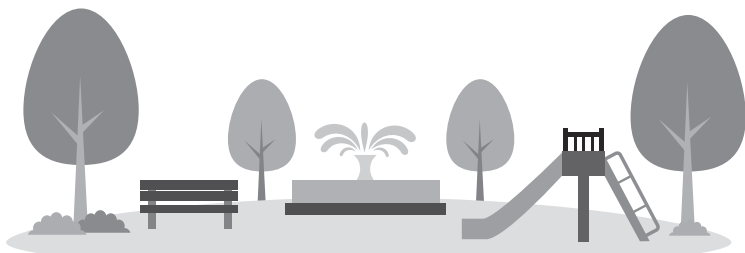
9年目には環境整備課へ異動となり、農業用ため池の放射性物質対策に携わりました。放射能災害は未だに当県ではデリケートな課題ですが、この業務においては県や関係組織と協力して確立した線量測定技術と浚渫技術により着実に対策が進んでいます。これも福島オリジナルの技術による成果です。

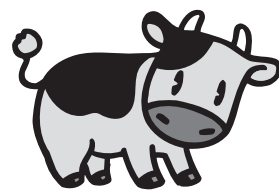
次の年、10年目で全土連への出向の辞令を受けました。今回のテーマである勤続10年の節目は福島ではなく東京で経験することになりました。2年間という出向期間ではありませんが、担当する業務の幅の広さや農水本省との距離間から、これまで携わってきた業務の仕組みや土地連という組織の立ち位置がより鮮明なものとなりました。

出向期間の後半にはコロナウィルス蔓延等の問題もありましたが、なんとか東京都の緊急事態宣言前に福島に帰ることが出来ました。

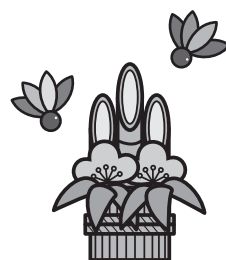
今後の個人的な展望としては、私自身、大学の専攻も農業土木ではないですし、当会での業務歴からも土地連の技術職と言うには不完全で異質なスペックではありますが、これをコンプレックスと考えず、さらに拗らせて独自の視野と価値観で土地改良事業へアプローチし続けることが、私なりの闘う土地改良であると考えております。

まだまだ、勤続10年程度の未熟者でございますが、今後もよろしくお願いたします。





年男・年女



4度目の年男

山都町土地改良区

鈴木 篤

本年もよろしくお願いいたします。

丑年の年男ということで「むつみ」の寄稿依頼があり、書かせていただく事になりました。日々の生活で自分の年齢はわかっていたつもりですが、(たまに出て来ないことも。)今回の依頼で「4度目の年男になったのか。」と正直気付かされました。

年を重ねるたび月日の過ぎるのが早く感じられ、せめて気持ちだけはと思います。身体は正直なものです。この年齢になるとやはり健康面が頭に思い浮かび、この数年の出来事が思い出されます。

40歳を過ぎた頃から以前にも増して身体の衰えは感じており、本来であれば運動、食事と気を付けられ

いのですが、昔から面倒な事は苦手なタイプで現実に向き合うのは厳しく、そのまま歳を重ねて来てしまいました。その結果体重は増え、毎年の健康診断結果では、前々からコレステロール・中性脂肪等の数値が高くなり、これからの人生を考えたところ、遂に薬を飲み始めるようになりました。おかげで数値は基準値内に下がったものの、どこか後ろめたさが残るところではありますが、性格上しばらくは薬に頼っていいこうと思っています…。

また、一昨年には体調不良で病院へ行ってみると、恥ずかしながら盲腸で緊急入院することになり、「日々の不摂生が祟ったに違いない。」と一時的に反省したところでした。

当土地改良区は職員が1人という事で、役員の方々を始め家族にも大変ご迷惑をかけた事を身にしみて感じました。

新年早々、落ち込む話になりましたが嬉しい出来事もありました。

昨年、ある事がきっかけでいところと集まる機会があり、お互い少し老いた面もありましたが幼少期・学生時代の話で盛り上がり、久々の再会にみんなが喜び楽しい時間を過ごせた事、4度目の年男を迎えるにあたって良い思い出になりました。

今更になりますが「人生、山あり谷あり！」

改めて健康管理・人との出会いを大切に、公私ともども充実した5度目の年男を迎えられるようお願いいたします。

年男

須賀川市土地改良区

橋本 雄司

年男の原稿執筆依頼を頂いて、改めて「還暦」と言う言葉を意識した。赤いちゃんちゃんこと赤い帽子?を被る60歳、考えたこともない年齢で有り、改めてもうそんな年なのかと思う。

思えばすべて順風満帆とは行かず、我が人生、紆余曲折いろいろなことがあったが、この土地改良区と

言う職についたのも何かの縁なのだろう。

右も左もさっぱりわからない状態で、今やすっかり重鎮になってしまった。昔から何もかわらないと思っているのだが、明らかに時は進んでいるのだと実感する。容姿もしかり。体力も、すべてに於いてである。頭はすっかり白くなり(禿はしなかった)、腰や膝が痛いし、なんとも情けない。そして「老い」を一番感じるのは、1に老眼、2に物忘れだ。昔、職場の先輩方が、眼鏡を下にずらしてのぞき込むようにして書類を見ていた様子をなんとも滑稽に感じていたもんだ。それがなんと日常で私もすっかりしているではないか。物忘れにしてもそう、すっかりメモを残しておかないとすぐ忘れてしまう。甚だひどいときは席を立った瞬間に何をするのか忘れてしまう。それと人の名前がすぐ出てこないときがある。

そんなこんなで、将来のことを考える内容は年金のこととかであり、ネガティブなことばかりなのだ。

将来の設計も、先ほどこいつた年金であるが、昔は60歳で定年を迎え、後は優雅に年金暮らしなどと考えたこともあるが、しかし、ちょうど私の

年代から年金受給は65歳から受給となっていました。5年間無収入はきつし、それこそ家で余されてしまう。やっぱり「働ける内は働かない」としなければならぬ。老後の構想は毎年海外旅行にいつて、お孫ちゃんと遊ぶなど夢のまた夢である。

でも、そうとばかりいつてもいられない。人間いつかは死ぬんだし、生きてる内は精一杯楽しく生きていかなければならないと前向きに意識を転換するしかない。

今まで、何回か「むつみ」で執筆させて頂いたが、この回で最後になると思うのでとりとめのないことばかり書いてしまったが、仕事を今まで続けられてきたことは、いろいろな方々にお世話になったからだと思う。

最後に辞世の句ではないが、細川ガラシアの「散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ」を唱って、私なりの残りの人生、退き際のタイミングを考えて行きたい。ご静聴ありがとうございます。

人生の節目に思うこと

猪苗代町土地改良区

筒井 祐子

明けましておめでとうございます。今年、年女を迎えるということになり、寄稿の依頼を頂き筆をとることになりました。

今回の年女は私にとって5回目、即ち還暦を迎える年であり、また退職を迎える年であることを意味します。還暦を迎えることにこれまで特別な思いを抱いたことはありませんでしたが、その意味を調べてみるとなかなか興味深く、還暦とは中国発祥で十二支と十干の組み合わせが生まれたときと同じ暦に還ることを指すのだそうです。まさに、第2の人生の始まりです。

プライベートでは、友人との会話でも、60歳頃までには生きがいを見つけたいね、という話が出ていたことを思い出します。友人の中には既に趣味を見つけ、精を出している人が何人かいます。しかし、今の私は正直これと考えるものがありません。ですが、人生は人と比べるものではなく、自分の幸せ、生きがいはきつと人それぞれのタイミングで現

れるものだと思うのです。ですから私は特に焦らず「楽しいと思えることを探していこう」と思うことにしました。そしていつか自分と相性の合う「何か」に出会うため、還暦を機に視野を広げてみたいと思います。

仕事においては、30年以上勤めさせていただきました。振り返れば平成5年に町内の四つの改良区が合併し、多くの県営ほ場整備事業や集積事業に取り組み、事務所内は活気に溢れ、忙しくも充実した日々を過ごしたことが思い出されます。気が付けばその頃を知る職員は私だけになりました。その私も今年は退職ということで、事務所も無事若返りが完了し、一安心というところです。

退職の年の今年は、手帳に記載した予定の会議や行事が一つずつ終わってゆくのを感慨深く眺めては、至らない私を支えて下さった関係者の皆様に感謝する日々です。

また、退職後には嘱託職員として、土地改良事業に携わる機会を頂きましたので少しでも農家の皆様の役に立てるよう努めたいと思っております。関係者の皆様、これからどうぞ宜しくお願いいたします。

2021年がどのような1年に

なっていくのか、今年の様子からは、なかなか想像しづらいものがありますが、この1年が皆様にとって良いものになりますようお願いしつつ、筆を擱きたいと思います。お読みいただき、ありがとうございました。

パワフルにがんばります

磐城小川江筋土地改良区

小山田 美保子

改良区にお世話になってから28年が経ち、我が事務所職員の中では一番年長の古参のお局様状態です。

改良区に勤務できたことで、おいしい作物は農家の方々の手間と労力に比例していることもわかり、かつこ良いことを話すより手間を惜しまない寡黙な行動の方が本当のかっこ良さだと教えてもらえました。

そんな時に結婚して35年、ずっと単身赴任の夫が青森から茨城に勤務先が変わり、毎週末帰ってくるようになりました。

周りの友人・知人も今まで年3回しか会っていなかったのに、大丈夫かと心配してくれましたが、昨年は2人で日帰りバスツアーを利用して御朱印集めや植物鑑賞、酒蔵巡りに

出かけました。コロナ禍で出かけられない今は、黙々と庭を手入れしてくれて助かっています。

私と違い口数の少ない夫は、気がつけばデッキの洗浄をしてくれて、春は藤の花を育て、夏は朝顔、トマト、紫蘇を収穫し、秋からは赤いコキアを鑑賞できるようにと、四季ごとの景色を楽しませてくれます。親の介護が必要になってきた時期に自宅であらげる環境を作ってもらえることにとても感謝しています。

私は、なるべく手間をかけた温かい食物を家族に提供して、豊かな気持ちと温かさを持ち、家族全員が助け合いながら、穏やかに過ごせることを目標としています。自分達も還暦に近づき、親の介護が現実となり、自分自身が子供達に負担をかけるようにと願う今日この頃です。

当改良区は、令和2年が役員改選だったので、新しい役員になりました。自分が年を重ねメンバーが変わる度に年齢差がだんだん近づいてきて、話を聞いても納得も賛同できず、自分の知っている場所や話もたくさんできるので、世間はコロナ禍でギスギスした話題が多いのに楽しく充実した気持ちで仕事ができています。とても幸せなことです。

現在の役員は、やる気満々です。

改良区役員が名誉職だった時代は終わり、前職で身につけた知識をもつて、持ち前の行動力でパワフルに動いてくださっています。そのパワーをいただき、自分も頑張りたいと思っています。いや、絶対頑張るぞお！という気持ちです。これから暫しの間よろしく願います。

年女の幕開け

棚倉町土地改良区

長 田 麻 美

新年あけましておめでとうございます。

改良区にお世話になり3年。なんと2回目の執筆依頼が舞い込んできました。しかも2人しかいない小さな改良区で、2人共依頼を受けるというから驚きです。依頼を受けて初めて今年が年女だという事に気づいたのですが、人生100年と言われる今、折り返し地点に近づく4回目の年女を迎える今年の抱負などを書かせて頂きたいと思っています。

人生の節目に折に触れて訪れる場所。きつと皆様にもあると思います。私にとってその場所とは厄払いをす

る某有名な厄除け大師です。そういう類の事に疎い私は、同級生にけしかけられ、女性の大厄といわれる年に初めて厄払いをしてから既に15年。それから、何かと情報を入れてくる同学年の寅年の友人達。半ば冷やかし半分なのでしよう。来年はあなた達の番よ！と思いつつ、なんと今年は年女に加え、鬼門の年だそう。あれ？数年前に確か八方塞のお祓いをしたばかりのような…。

日々の生活の中では大して気にもしないのに、いざ指摘されるとやはり気になるものです。早速お祓い友達に連絡し、今年は近場で神頼みする事になりました。家内安全はもちろんのこと、私の個人的なお願いは、コロナ禍のせいにして怠っていたダイエット。去年から始まった長男の部活の追っかけに忙しく、週末の田んぼ仕事の手伝いをさぼっていたせいかもしれません。農家の嫁らしい事を思ってしまう自分に驚いていますが、土地改良区にお世話になったことも、非農家育ちから農家に嫁いだ事が関係しているこの縁に感謝し、農家仕事も健康づくりの一環だと、ポジティブにとらえて行こうと思います。まずは次男の卒業・入学式が無事に執り行われることを祈り

ながら、去年長男の式典で着たスーツに袖を通せますように。そして何よりも、コロナが落ち着き、早く元通りの日常生活に戻り、安心して暮らせる世の中になってほしいと願いながら、笑顔、そして穏やかな心で1年を過ごして行きたいと思っています。

最後になりますが、職連協並びに会員の皆様のご多幸を願い結びと致します。

5年目を振り返って

水土里ネット福島

石 黒 吉 亜

平成27年度に福島県土地改良事業団体連合会に採用され早5年目となりました。

採用当初は企画指導課に配属され、主に水土里情報システムと言う福島県全域の農地筆・区画図や基幹水利施設情報を利用機関要望により整備するシステムに関する業務を行って来ました。

水土里情報システムの活用方法は多種多様な業務が多く、最初は水土里情報システムの重要性を理解していなかったのですが、多くの業務に

携わることにより活用方法を知ることができました。

土地改良施設の位置情報により、施設の維持管理等の効率化や溜池ハザードマップ作成などの防災事業に活用するなど、今後水土里情報システムの活用は、福島県内の農業発展・振興に大きく貢献できる物であり、より一層身につけていかなければならない業務だと考えています。

採用4年目に農村整備課に配属されました。農村整備課での業務は県内の基盤整備事業において主に圃場整備事業の調査、設計に関わる資料収集や事業の効果算定を行うことです。最初は専門用語や圃場整備の設計基準等を知らず右往左往することが多かったのですが、採用5年目になり後輩もできていろいろ聞かれる立場や追い抜かれる立場にもなり、今年度の目標は、分らない業務を上司に頼るのではなく、自分で勉強して、土地改良業務の流れや基盤整備事業における設計基準を覚えるとともに、各事業の目的を把握して各業務の目的を覚えることだと考えております。

今後は各業務の完成形や流れを学習して、一人でも業務を担当できるようになり、より一層福島県土地改

良事業団体連合会や土地改良区及び福島県の農業発展に貢献していきたいと考えております。

新年の抱負

水土里ネット福島

宮田 亮

新年明けましておめでとうございます。今回、光栄にも本誌への執筆の機会を頂きました、水土里ネット福島施設管理課の宮田と申します。よろしくお願いいたします。

執筆にあたりこれまでを顧みますと、東日本大震災の翌年度に採用され、本会に勤続して今年で9年目を迎えることとなります。採用が決まった当時、福島県に対しては放射能に起因するネガティブな情報が多く、不安ながら茨城県から移住してきたことを覚えております。

まず配属になった測量課では、ほ場整備後の確定測量を中心に携わり、次に環境整備課に移ってからはため池放射性物質対策、そして令和元年4月からは施設管理課に配属となり、農業水利施設の診断・補修に関わる業務に携わっております。

本会に採用されてからは初めて訪

れた地域が殆どでありましたが、被災の翌年度でありながら一面に作付が行われている光景や、生活の気配がなく除染が本格化していく物々しい風景から、次第に農地が再生されていく移り変わりを目の当たりにしてきました。情報が容易に手に入る環境となったものの、あまり語られない実態を確認することも含め、現地に足を運ぶことに意義は大きいと感じました。

業務を通じた技術面の向上のみならず、自然災害やウイルスなどの大きな社会問題との繋がりを持続しながら業務や生活を営むという貴重な経験を積ませて頂いております。

今の業務は本年度から配属となったこともあり、学びに重心を置きながら業務を進めております。知的謙遜の姿勢を維持しつつも、未知の出来事や新しく理解出来た事柄に対して、少ない経験が直接的・間接的に活用できる場面に確認するという注意も払っております。まもなく新たな部署で2年目を迎えることとなります。目の前の課題に対して、時間を大きく犠牲にすることが無いよう、時に俯瞰した視点から観察し、必要に応じて足りない部分を補いつつも創造性をもって問題解決に取り

組めるようになることが課題となります。

纏まりがなく稚拙な文章ではございますが、最後まで読んで頂きありがとうございます。本年はより良い社会に向かいますよう、祈念いたします。



新会員の みなさんより

土地改良区の職員 として

千軒平溜池土地改良区

岡村 泰典

会員の皆様はじめまして。昨年の11月1日に、ここ千軒平溜池土地改良区の職員となり1年が経過しました。

この大野地区に生まれ育ち46年、少なくとも中学生生活の3年間は事務所の前を通り通学していましたが、正直存在すら記憶にありませんでした。

そんなある日、農業を親父の代から私の代へ引き継ぎを考えていた時に、『千軒平へ来てくれないか』と声をかけて頂きました。『千軒平』という言葉は耳にするものの、土地改良区とはあまり耳にせず、正直どんな会社なのかも知りませんでした。

その時、親父の方から『祖父が組合長になり基盤整備事業を始めた時に、千軒平には大変お世話になった。完成した姿を見ることなく死んだが、何かの縁だから協力したらどうだ』と言われました。それでも私はピンと来ず、直接事務所へ伺い理事長を訪ねました。事務所に入ると同時に、『よく来てくれた！引き受けてくれてありがとう！』と言われ、どんな仕事をやるのか聞きに来たと言い出せず、そのままの流れで入所しました。

入所して間もなく、ほ場事業を推進している大野第二地区の調書を渡され、まとめて県に提出して欲しいといわれ、調書の内容を熟読し、現場へ出向き、関係者に直接会い話を聞き、少しずつですが解り始めてきました。10年以上かけて苦労して整備してきたこの大変さをどう伝えるべきかを考えまとめた結果、12月5日に開催された農業農村整備優良地

区コンクールに参加させて頂き、水士里ネット会長賞まで頂きました。

入所1か月足らずで、いろいろな経験をさせて頂いたことで、土地改良区の役割、土地改良区的重要性が分かり始めた気がします。

1年経った今でも、専門用語が飛び交う環境の中、理解に苦しむ場面が多々ありますが、沢山の事を経験させて頂き、知識習得に努めていきたいと思っています。そしていつの日か組合員の皆様に、『千軒平に良く来てくれた』と言われるような人材になり、地域の農業の発展のために貢献したいと思っています。

よろしくお願いします

請戸川土地改良区

南原 茄奈

令和2年1月より請戸川土地改良区職員となりました南原茄奈（みなみはらかな）と申します。令和元年7月より臨時職員として勤務しておりましたが、令和2年1月より正職員となりました。

私は浜通り南相馬市の出身で、実家も農家を営んでおります。幼い頃

より田植えや稲刈り、畑仕事は身近なものでありましたが、正直なところ興味は希薄だったように思います。去る平成23年に起きた震災・原発事故により、一度は実家も離農したわけですが、基盤整備が進められていく中で農業法人を立ち上げ、今年度より9年ぶりの作付け及び収穫が行われました。

そんな実家との縁もあり、土地改良区でお世話になる運びとなるまでは、農業とは関わりのない生活をしており、土地改良区がどのような役割にあり、業務の内容が何たるかが全く見当もつきませんでした。臨時職員としてお世話になり始めた初めの頃は、言葉に慣れるのが精一杯でしたが、換地業務に関わるうちに、少しずつではありますが慣れてきたところです。

時折、都会の喧騒から離れ、地元に戻り一番良かったなと思えることが一つあります。それは見上げた星空の美しさです。一等星の輝きはさながら、五等星、六等星の光までまっすぐに届いてくるほど澄んだ空気が。幼い頃、天空にびっしりと敷き詰められた光に鳥肌が立ったことを思い出しました。見渡す限りの田園風景が続く土地に産まれた特権だっ

たのだと、大人になった今分かるようになってきました。

田舎嫌いだった私がこの地で子育てをしているのも、何か縁があるのだなと感じながら、ふと中学生の頃に地元の俳句大会で詠んだ句のことを思い出しました。

「稲実り 刈り取る父の 背中見る」運よく大賞をとってしまい、当時はとても恥ずかしかった記憶でしたが、農業をする父の姿は潜在的に記憶の中に根づいていたのだと思います。

今またこの地が再生し始め、父が生き生きと農業をする姿を見ると、我が子にもこの地の良さを肌で感じ、命を繋いでほしいと思うようになりました。「農地の再生」そして「未来へつなぐ故郷」、今の私はまだまだ経験も知識も浅いです。ただそれだけ吸収力があると思っておりますので、農家と行政をつなぐ架け橋になれるよう、土地改良区職員として邁進して参りたいと思います。

土地改良区職員と なつて

安積疏水土地改良区

渡辺 友也

令和2年4月より、安積疏水土地改良区に入職いたしました、渡辺友也と申します。今年の3月に大学を卒業し、入職してからもうすぐ1年経つと考えるとあつという間に感じています。

私の実家では、昔から農業（稲作）に勤しんでおり、幼い頃から微力ながら手伝う形で祖父母及び父母が働く姿を近くで見してきました。代かきの時期になり、田付近の水路に水が流れてきたら田に水を掛け入れ、自由に田へ水を入れ調整できる、このように稲作シーズンが始まると自然に水が流れてくるようになっていたのだとこれまで思っていました。

しかし、実際はそうではないことを本区に入職し、水利課の職務を経験していく中で知ることができました。猪苗代湖というあの大きな湖から本区所在の郡山まで配水しているだけでなく、私の実家の近辺までも本区の事業により農業用水が届いていたことにとっても驚きました。幼い

頃から見ていた景色・構造物の中にも、本区の水路・構造物がいくつもあり、職員としてその現場に行ったときは「こんな所に疏水の水路があつたのか」と心の中で驚いた場面が何度もありました。

これまでの約9カ月、水利課では組合員の田に水を届けるために、巡回による水路維持管理（水量確認、各地点のゲート操作及びごみの除去など）を行ってきましたが、下流部まで水を届ける大変さを痛感しました。また、昨年の台風の影響も残っている箇所がいくつもあり、灌漑期前に土砂浚渫、倒木の除去などを行い、水が滞りなく流れるように行つた作業は刺激的で鮮明に覚えています。これらの経験も踏まえて、灌漑期に水路に水が流れていることが当たり前前ではないことにも気づくことができ、自分の知らないところで必死に頑張っている方たちがいることを改めて知りました。

現在、農業に従事する過半数近くを高齢の方が占めていることもあり、担い手不足や農業の衰退を不安視する声が多いですが、徐々に浸透してきているスマート農業を積極的に取り入れることで、労働力の削減及び業務効率化につながり、より若

者が参入しやすい産業になっていくと感じると同時に、就農コストに対する補助を厚くし、参入しやすい環境づくりにも力を入れる必要性があると感じます。日本に限らず、世界は、農業という食物を生産する産業があるからこそ成立しているのであり、幼い頃から現在にかけて農業が身近であることから、農業は産業の誇りだと強く思います。

土地改良区職員としても、一個人としても農業のすばらしさを伝えながら、本区運営の向上及び組合員のために精一杯職務に従事する所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



よろしく願い いたします。

安積疏水土地改良区

圓谷 昌紀

初めまして。令和2年4月より安積疏水土地改良区にてお世話になっております圓谷昌紀と申します。

私は家が農家をやっていたこともあり、幼いころは農作業についていつは田んぼの周りで虫を捕まえたりして遊びながら育ち、大きくなってからは田植えや稲刈りの時期になると家の手伝いをするようになります、私にとって田んぼはずっと身近な存在でした。

そんな環境で育ちながらも田植えの時期になれば水は流れてくるものであり、稲刈りの時期になれば水は来なくなるといのが当たり前のように感じており、川の水が流れてきているような感覚でした。田んぼにかけている水がどこから流れてきているもののかなど考えようともしていませんでした。

土地改良区の仕事を調べていくうちに、当たり前に流れてきていると思っていた水がたくさんの人が関わっていることで田んぼに流れてき

ていることを知って、驚きとともに毎年流れてきていることにありがたみを感じました。

採用していただいていたからは、知識も経験もなかったのではゼロからのスタートとなりました。

私は財政課に配属になったのですが、今まで生きてきた中で聞いたことのない言葉がたくさんあり、最初は飛び交う知らない言葉に困惑していました。

土地のことを調べている中でも、登記を見るのも初めてで、登記のどこを見れば所有権者が分かるのか、地積がどこに記載されているのかすら分からない状態でした。

分からないことがあるたびに諸先輩方に教えていただきながら、少しずつではありますが言葉や仕事内容について覚えることができました。覚えが悪く同じことを聞いてしまうことがあります、そのたびに丁寧に教えてくださる諸先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今年は新型コロナウイルスの影響もあって様々なイベント、研修が実施できない状況が続いて交流する機会が無くなってしまっていますが、1日でも早く研修ができるようになることを願っています。

最後になりますが、まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、1日でも早く一人前になれるよう努力していきたいと思えますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

よろしく願いします。

水士里ネット福島

齋藤 浩平

令和2年4月から福島県土地改良事業団体連合会に勤めております、農村整備課・技師の齋藤と申します。よろしく願いします。

早いもので8ヶ月の月日が経ちましたが、まだまだ勉強になることばかりです。

今まで、高校は普通科、大学では土木工学科と農業に関わってきました。この会に入会してから初めて農業に直接関わったようなものだったので、最初は土地改良もほ場整備も、何をするのかなのか全くわかりませんでした。

疑問に思うことばかりで、わからないことがわからないという状態の私ですが、よく聞きメモをとるよう

にと教えていただき、それを実行して理解につなげていくことを意識していきたいと思えます。

コミュニケーションをとるのも得意ではないので電話の対応や、地元の方々と話す場面で、説明し理解してもらうことがこんなにも大変なのだと痛感しました。しかし時間がたつにつれ環境にも慣れ、現場作業を通じて地元の方と話すことも増え仕事以外の面でも少しずつ成長できていれと思います。

そして今年社会人1年目で、土地改良・ほ場整備など聞き慣れない言葉と多くの専門用語の他にも、社会での一般的なことまでも周りの上司、先輩の方々から、見て・聞いて知識をつけていければと思います。

もうすぐ1年が過ぎるということですが、これまで少しでも学べたことを繰り返し覚え、今度は使いこなして、教えることができるまでになれるよう、2年目、3年目と今後に向けてより精進していきたいと思えます。

今年はコロナウイルスのこともあり、仕事面でもプライベートでも何かと不自由がある年だったと思います。このようなご時世ですのなかなか会って話す機会も無いと思いますが、これからよろしく願いいたします。

土地改良区職員と なつて

大玉土地改良区

渡邊 佳音

会員の皆様はじめまして、令和2年4月より、大玉土地改良区で勤務しております渡邊と申します。よろしくお願いいたします。

私の家では米の栽培と肉牛の飼育をしております。幼い頃からそれらの手伝いをしてきましたが、もともと農業を継ぐ気はありませんでした。私の前職は警察官でした。栃木県警として1年間という短い期間でしたが勤務していました。警察官として1年が過ぎたときやっぱり福島に帰りたいと感じるようになりました。栃木はとてもしつよい場所でしたがやっぱり生まれ育つた福島が好きだと改めて感じるようになりました。そのため、去年栃木県警を1年間で辞職し、福島に帰ることを決意しました。

福島に帰つてきたのはいいですが仕事がありませんでした。ハローワークで仕事を探し二本松市役所の臨時職員として働くことになりました。そこで住民票や戸籍謄本を作

成する仕事をしていました。そこで3か月ほど働き、年も代わり今年は二本松市役所の試験を受けようと思つていました。しかし突然、大玉土地改良区の試験があるから受けてみないかと親から言われ、その試験を受けることにしてみました。結果は合格で今年の4月から現在も勤務しております。

入社して最初に行つていたのは、水路のごみ上げでした。かなりの距離をフォークを持って歩きながら作業しました。私と上司の2人で作業していましたが、私が入社する前は上司が1人で作業していたみたいで驚きました。次の日は腰が悲鳴を上げていました。土地改良区に入社する前は何気なく目にしていた水路で、「今日も水が流れてるなあ」としか感じたことはありませんでした。しかし、入社して実作業をしてみると、毎年点検やごみ上げをしてるからスムーズに水が行き届くのだと感じました。

入社して半年以上経過しましたがまだまだ分からないことだらけです。正直説明を受けても何がなんだか分からないこともたくさんあります。ですから、説明を受けるだけではなく、自分で調べたりして知識を

定着させて1日でも早く戦力になれるように努めて行きたいです。

今年コロナウイルスで会議や説明会が次々と中止になり、仕事の中々考へてるようには進まず困惑することも多々ありました。この状態がいつまで続いていくのか分かりませんが、感染予防対策を徹底し、この事態が1日でも早く終息すること願つております。

土地改良区職員としての 抱負と目標

請戸川土地改良区

佐藤良太郎

新年あけましておめでとうございます。令和2年4月から双葉郡浪江町にある請戸川土地改良区に勤務しております佐藤良太郎と申します。

地元である浪江町で生まれ育ち、県外の大学を卒業後、同じく地元の農協に就職しました。東日本大震災の原発事故により、いわき市に避難し生活していましたが、実家がある地区の避難解除を機に仕事を退職し、浪江町に戻ってきました。その後、ご縁があり請戸川土地改良区の職員として仕事させていただくこと

となり、現在に至っております。

土地改良区に勤務して最初に驚いたことは、行う業務の幅広さでした。一般事務からダムの管理・環境保全業務、各施設と幹線水路の点検・整備等多岐に渡り、様々な業務を経験させてもらいながらも対応に苦慮することが多々あり、自分の至らなさを日々痛感しています。

それでも、基礎から丁寧に指導してくれる諸先輩方や質問・相談しやすい職場の雰囲気のおかげで、何とか業務をこなすことができています。改めて自分は人や環境に恵まれていると感じています。

請戸川土地改良区管内には、原発災害の影響で帰還困難区域に指定されている地区が現在も残っており、避難解除区域についても住民の帰還が進まず営農に関する課題は依然として多いのが現状です。浪江町は少しずつではありますが、水路・ため池等施設の復旧・整備が進み、耕作地が増えていくのが実感できます。以前と変わらない自然豊かな田畑の広がる景色を見ることができるようになり、自分の携わる仕事がわずかも地域復興の一助となれているのではないかと考えています。

まだまだ知識も経験も足りず、ご

迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、初心を忘れず、目の前の仕事に真摯に向き合える職員になれるよう努力していきたいと思っています。今後とも土地改良事業団体の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

宜しくお願い致します

猪苗代町土地改良区

青山 都

会員の皆様はじめまして。

令和2年4月より猪苗代町土地改良区に勤務しております、青山と申します。福島県土地改良団体職員連絡協議会の会員の皆様には、大変お世話になっております。新会員として原稿の依頼を受けましたので、僭越ながら述べさせていただきます。

私が入職してからあつという間に9か月目を迎えました。会計と総務を担当しています。前職は、銀行の窓口係をしていました。お金に係する仕事ではあつても、初めてのことばかりで日々勉強中です。

生まれも育ちも嫁ぎ先も町内で、30数年間ずっと猪苗代町で暮らして

います。実家も嫁ぎ先も農家です。農業に携わる機会はほとんどありませんでしたが、幼い頃にトラクターに乗せてもらった楽しい記憶があります。このような形で、ずっと身近であった農業に携わる仕事に就けたことを大変嬉しく思います。

そして今年は何といつても、新型コロナウイルスへの感染防止対策が大きな課題でした。会議が書面議決になり、川浚いや刈払い等の作業が延期になるなど様々な影響がありました。特に作業の延期は町のクリーンアップ作戦の中止を受けて決定したものの、集落の代表者さんからの問い合わせが多くありました。農業は季節に合わせて作業があり、毎年同様に行われます。それを延期するという事で、不安が広がった様子でした。

お互い初めての事で戸惑いがある中でも、職員の皆さんの丁寧な対応により組合員さんも納得し、協力して下さいました。そういった姿勢がとても参考になり、今後の業務の目標になりました。大変な御苦労があったと思いますが、イレギュラーな状況での対応を間近で学べたことは今後の糧になりました。

お陰様で、役員の皆様、組合員さ

ん、関係組織の皆様にも恵まれ楽しく働いています。仕事の方は、役に立つどころかご迷惑をおかけする毎日です。目下の目標は、一人で留守番できるようにする事です。滑稽な目標で笑われてしまいそうですが、少人数体制ですのでこれは必須です。その為には覚えるべき事が多いうえ、ケースバイケースな対応が必要とされる為、苦戦しております。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と自分に言い聞かせ、わからない事は積極的に伺っています。そうさせて頂けるのも皆さんの人柄あつての事であり、深く感謝致します。

最後になりますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

よろしくお願い致します

会津北部土地改良区

新明なつみ

令和2年4月から会津北部土地改良区にお世話になっております、新明なつみと申します。よろしくお願

いたします。私が土地改良区に勤務し始めてか

ら早9ヶ月が過ぎようとしてます。初めて土地改良区の名前を聞いたとき、何をするとところか想像がつかず、自分はこの事務所に入つてやっついていけるのか不安な気持ちながらも強かったです。そして、実際に働き始めてみると上司の方や先輩方が優しく安心したものの、何もわからないまま入った私は、生まれ育った土地にもかかわらず聞いたことのない集落の名前ばかりが出てくる、聞いたことのない専門用語が飛び交うなど全く頭に入ってきませんでした。

私の実家は農家ではないため農業との関わりは無く、組合員さんのほとんどが農家なのに水を田んぼに入れる方法も、その水がどこから来ているのかも全くわかりませんでした。ダムに関しては、喜多方には日中ダムしかないと思っていたのに、関柴ダムや大平沼ダムなど、1つだけじゃないことを知りました。そんな時、初めて頭首工と聞いたとき漢字に変換ができず、どこにあるのか、何をする所なのか想像できませんでした。後日、上司の方や先輩方にダムや頭首工に連れて行ってもらい、その中に私が高校の通学路にしていた道の途中にあった建物があり、当

時はそこにあるものという認識で、何のために川の横にあるのか考えたこともありませんでした。そのため、〓頭首工と名前があり、水の量を調整できる施設ということを知り、驚きました。

そんな学びの日々を送っていた私は、事務所近くの関柴小学校で行われた、ふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」の稲刈りに立ち会わせてもらった際、私も小学生の時に1度か2度ほど田植えや稲刈りの体験をしたことがあることを思い出し懐かしさを感じました。そこで、苗が稲になるまでたくさんの水を使うと思いますが、その水は事業管理課の先輩方や水利委員の方々がすべての田んぼに行き届くように流し調整していると思うと、土地改良区が難しく大変な仕事だということを感じました。

まだまだわからないことが多く覚えることがたくさんありますが、1日でも早く組合員の皆様のお力になれるよう、一生懸命頑張っていきたいです。指導の程、よろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひ いたします

水士里ネット福島

菊田早希子

会員の皆様はじめまして。令和2年4月から福島県土地改良事業団体連合会にてお世話になっております菊田と申します。よろしくお願ひいたします。

私は3月末までの5年間、県の農地管理課で任期付職員としてお世話になっていた関係で、職場に限らず研修会等でも知っている顔を見ることででき、新しい環境ながらも心強く感じております。

農地管理課では、主に換地業務や砂利採取の許認可業務を担当しております。換地という言葉すら知らない状態から始まったものの、皆様に教えていただいたおかげでなんとか換地士の資格を取得することができました。砂利についても違法採取など多くの問題に一つ一つ取り組み、解決していくことができたと思います。

県で働いてみて特に印象深かったのは、何を良しとするかについてです。何か困ったことがあった時、誰

しも解決するにはどうするかを考えていくと思います。それぞれの解決方法がある中で、県という組織として正しいことは何か、何を優先し良しとするかを考え話し合う経験をしてきました。そして、関係者間で考えているとどうしても抜けてしまう関係者以外の人や将来に渡ってもおおむね正しいといえる解決方法かという視点を学ぶことができたと思います。

ただ土地連に来て8ヶ月が経ち、これまで見えていたものはごく一部だと改めて感じる人が多いです。本来良しとされていない手法であっても、他の解決方法がないためそうせざるを得ない、解決するには根本のところから変えなければならぬというようなケースがあり、制度の目指したいものと現実の擦り合わせの難しさを実感しています。どちらも満たすことができない以上、より現場に近い立ち位置であることから、これまでよりも現実の人間を助けることを重視した判断が必要とされているように考えています。

日々業務の中で様々な地区の話などを聞くたびに、地区によってそれぞれの問題がありそのとき必要とされる解決方法を模索していくところ

が、換地の大変さ、難しさであり、また面白さでもあると思っています。

まだまだわからないことばかりですが、少しずつできることを覚え、微力ながらお役に立てるよう努めていきたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



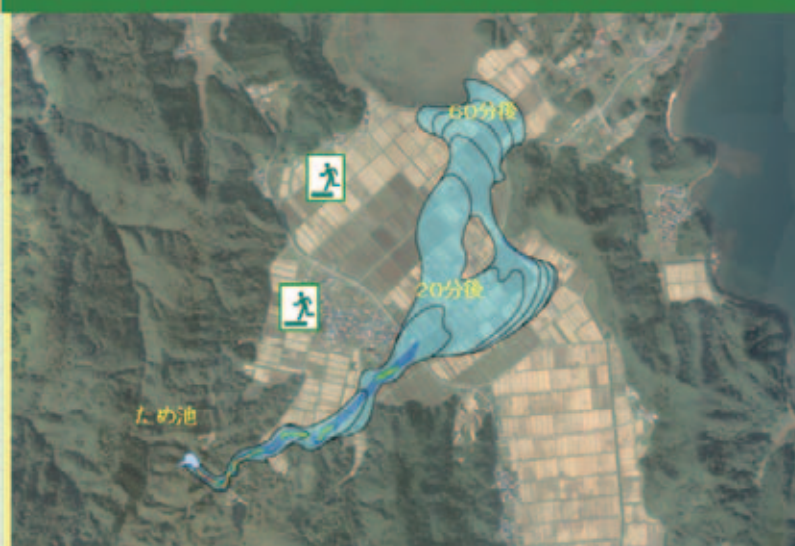
表紙写真 「ふくしま むらの輝き2019」写真コンテスト
「実りの秋楽し」 吉井 芳美 さん

水土里ネット福島は、水土里を未来につなぐ農業農村整備に取り組んでいます。

水土里ネット福島は、会員並びに地域社会の要請に応じた、新たな業務及び支援に向けて各種の取り組みを展開しながら、活力ある農業・農村づくりのお手伝いをしております。



水土里情報システム(GIS)を活用した、ため池ハザードマップ作成への支援



本会が所有する【水土里情報システム】と【簡易氾濫解析ソフト】を使用して、ため池が決壊した場合の浸水想定区域図が作成できます。



福島県土地改良事業団体連合会

〒960-8502

福島市南中央三丁目36番地

TEL 024-535-0371

FAX 024-535-1200

<https://www.midorinet-fukushima.jp>